

永大 銘樹モクトーンの床材 「ニレ」 についての不具合

トラブル事例 フロアコーティング

モクトーンは 10 数色の種類があり、色、木材の違いで光沢の出方が顕著に違いが出る商品だが、中でも「ニレ」について下記の不具合があり。

使用液剤

セラミックガラス（微光沢）

M プライマー A:B 希釈ベース 2:1:10

1 件目

（液剤：M プラ 2:1:10）

当日は間違いなく施工中の写真も撮っており、均一に塗れていることを確認。乾燥後も入室して仕上がりに問題ないことをチェック済み。しかし、その 5 日後入居されたお客様より、翌日には剥がれているように見える箇所があるとご指摘あり。

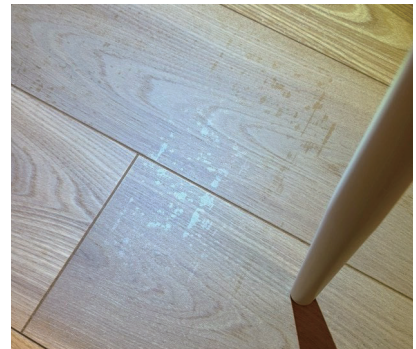
訪問してみたところ、広範囲に、そして斑らに光沢が引けている箇所があった。面積の割に剥がれカスなどは一切出しておらず、剥がれていないことをお客様にも確認いただいた。



施工中



施工後



2 件目

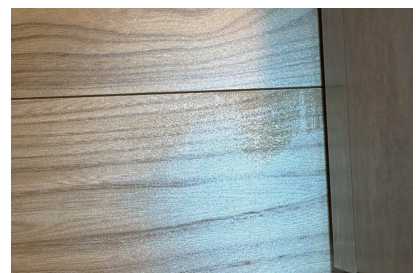
（液剤：M プラ 2:1:6）

1 件目の問い合わせも踏まえ、対策を取るために、全面の足付けの量を目安として 4 倍ほどに増やし、また光沢を少しでも出すために M プラの割合を 2:1:6 に変更。塗布量も気持ち多めにした。

トップコートについては原則同じ希釈量、同じ塗布量で施工。

当日乾燥後の確認時点では、同じく仕上がりは均一で良好。

物件の引き渡しまで日数に余裕があったので、翌日夕方に再度仕上がりを見に行ったところ、全体的には概ね綺麗だったものの、よくライトで確認したら、角付近など、一部光沢が引けているところを発見した。



3 件目

(液剤：M プラ 2:1:6)

同床材で、1-2 件目とはだいぶ時間の空きがあり、2 件目と同様の施工方法で対処。

施工から数日後、入居間も無くのお客様より色が違う箇所があると問い合わせがあった。

症状は似たようなもので、色の違いは光沢差によってそのように見え、間違いなく塗り漏れるような場所ではなく、当日仕上がりの確認もしていたはずだが、明確な光沢差が出ている箇所が洋室 1 部屋の一部分だけあった。こちらは光沢が出てもいいから均一であって欲しいというお客様の意向で、ピース単位で上塗りを実施した。上塗り乾燥時点で均一な状態になり、再施工 1 週間後お客様に確認を入れたが、ツヤは少し出ているものの、ピース単位では均一になってくれて満足している、と了承が取れている。



要因

3 件目のアフター対応結果からも、上塗りで均一な仕上がりの層が完成したことから、極端にツヤが引けているように見えた 1 層目も、塗膜が剥がれているわけではなく、塗膜自体は存在していて、何らかの要因で光沢が引けているだけと考えられる。

対処

対処方法は、ひとまず足付けシートの交換タイミングを増やすこと、足付け自体を通常よりも 4～5 倍かけ、端っこも手やすりなどで足付けすることを意識すること(もちろん 1-3 件目も脱脂はラッカーシンナーで行ってます)が一番有力な解決策と考えております。
いかんせん、施工当日の乾燥後では仕上がり不備が出ないので、施工時に徹底して処理をする、のみの対応方法になります。

協会の見解

- 1 件目：床材にノリや何かの成分が残っており、それが反応しているのではないか。
- 2 件目：塗布量が少ないのではないか。角や他の箇所との塗布量の違い。
- 3 件目：巾木付近は新築時の養生ボードを固定する粘着テープ成分やボード成分の影響があるのではないか。

下地剤塗布前の事前清掃にて、目に見えない補修剤や養生成分などの影響も否定できないため、養生ボードや粘着テープの種類を確認し、ボードと粘着テープの成分を調べる必要があります。足付けを増やしても剥がれではないので効果的ではなく、溶剤清掃や洗浄方法を取り入れるなどの事前清掃方法の見直しと、プライマー塗布量の確認と端と他の箇所の塗布量の均一施工方法の見直しが必要かと思われます。